「消化管癌の臨床病理学的項目および分子生物学的異常の検討」

【はじめに】

消化管は口腔に始まり、咽頭・食道・胃・小腸・大腸を経て肛門に終わる一連の臓器であり、食物の消化・吸収を行います。それぞれの部位で良性および悪性腫瘍が発生し、特に癌についてはその分子生物学的異常や臨床病理学的特徴、予後との関連等が研究されてきました。

今回の研究では、消化管癌における臨床病理学的特徴や分子生物学的異常などを網羅的に解析し、それぞれの臓器における癌や良性腫瘍、過形成病変の特徴を多面的に検討することが目的です。

【研究内容】

消化管癌における形質発現や分子標的治療薬のターゲットとなりうる蛋白発現とそれに関連した蛋白、また、それらの遺伝子の解析を行います。解析した結果と臨床的な情報を統計学的に比較し、形態学的分類に基づく発癌経路の解明、治療や病理診断に役立つような、消化管癌の形質発現、分子標的治療薬のターゲットとなりうる蛋白発現などの分子生物学的特徴を探ります。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究に登録された患者さんの臨床情報は，氏名などの個人が識別できる情報でなく，固有の登録番号で管理します。研究の結果などの公表に当たっても，個人が識別できる情報は一切公表されることはありませんので，個人情報は完全に保護されます。

【対象】

・研究期間

2013 年 8 月 1 日より 2018 年 3 月 31 日までとします。

・対象

1971 年 1 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までに形態機能病理学教室で診断した消化管腫瘍症例（既採取試料のみ）を対象として研究を行います。患者さんが対象者となることを希望しない場合は、対象となる症例から除外して研究を行います。

臨床検体（パラフィン包埋標本）計 469 例

胃噴門部癌 63 例、胃低分化腺癌 47 例、胃肝様腺癌 45 例、胃幽門部癌 50 例、十二指腸腺腫 24 例、十二指腸 Brunner 腺過形成 17 例、小腸癌 47 例、大腸癌 77 例（うち右半結腸癌 63 例）、大腸低分化癌 84 例、大腸内分泌細胞腫瘍 102 例、潰瘍性大腸炎 16 例。

【データの二次利用】

この研究で採取したデータは貴重であるため、今後の他の研究に再度利用する可能性があります。利用する際は、倫理的な問題について、施設の倫理委員会で再検討します。

【医学上の貢献】

この研究により、消化管癌において、どのような形質発現や蛋白発現が患者さんの予後に影響

しているか、という有用な情報が得られると考えられます

【研究機関】
医学研究院基礎医学部門形態機能病理学分野・教授・小田義直
医学研究院基礎医学部門形態機能病理学分野・准教授・相島慎一
医学研究院基礎医学部門形態機能病理学分野・講師・山元英崇
病院医病病理部・講師・孝橋賢一
医学研究院基礎医学部門形態機能病理学分野・助教・平橋美奈子
病院医病病理部・医員・熊谷玲子
医学系学府・大学院生・熊谷好晃
医学系学府・大学院生・河野由紀子
医学系学府・大学院生・高橋俊介
医学系学府・大学院生・瀧澤延喜
医学系学府・大学院生・一瀬理沙
医学研究院臨床腫瘍外科学・教授・田中雅夫
医学研究院消化器総合外科学・教授・前原喜彦

研究代表者:
小田　義直(おだ　よしなお)
九州大学医学研究院形態機能病理学
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
電話:092-642-6067　　FAX:092-642-5968
E-mail:oda@surgpath.med.kyushu-u.ac.jp

本研究の連絡先:
孝橋　賢一(こうはし　けんいち)
E-mail:kohas@surgpath.med.kyushu-u.ac.jp
熊谷　玲子(くまがい　れいこ)
E-mail:rkumagai@surgpath.med.kyushu-u.ac.jp
九州大学医学研究院形態機能病理学
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
電話:092-642-6067　　FAX:092-642-5968